

フィンドレー大学留学報告書

鈴木ひばり

留学報告書3回目を書く時期になりました。10月は良いように言えば「平穩」はたまた違う言葉で言えば「恒常」という日々でした。留学が始まって3ヶ月経ち、色んなことにも慣れ始め、毎日同じような日々を送っています。

そんな中でも「Cultural Connection」という授業で実際に移民の子供達が集まる学校に行ったことは印象的でした。私は日本の大学で移民を専攻していることもあり、沢山の知識を身につけていましたが、実際に触れ合ったのは初めてでした。私はアメリカで学びたいと思って自分の意志でアメリカに来たのにこの子達は国の都合や親の都合で来た子達が多く、胸が締め付けられました。不可能なことです、彼らが学校を卒業して大人になるまで見届けていたいという気持ちでいっぱいです。彼ら達の現状を目の当たりにしても何も出来ない自分の無力さも感じました。

10月はfall brakeがありました。私は友達と一緒にシカゴに行きました。シカゴにはタクシーでトリドに行って、そこからバスを使って到着することができます。

アメリカでの初めての旅行、そして大都会シカゴにときめきがとまりませんでした☺

シカゴには美術館や展望台など沢山の観光スポットがあるのでおすすめです。



先月までは自分の英語力の伸びを強く実感していましたが、今月になって停滞していると感じます。英語を使おうと思っても自分の中にある限られた言葉でしか自分の気持ちを伝えることができず、深くまで相手のことを理解することも自分を理解してもらうことも難しいです。これは私の英語のボキャブラリーのなさが大きく影響していることなので少しでも良くなるように日々精進します。

また、最初は自分が英語で話したことに對して、聞き返されたり違う意味で捉えられてしまうことに嘆いていましたが、この障害は日本語母語者同士でも起こり得る当たり前のことであると気付きました。それに気づいてから英語で人とコミュニケーションをとることがもっと好きになりました。

アメリカの学生は基本的に留学生に興味がありません。冷淡に感じるかもしれませんが、私も日本にいた時に自分から積極的に留学生に話そうとは思いませんでした。これは当たり前のことです。そんな中でも私たちと仲良くしてくれるアメリカの学生、他の国からの留学生が沢山います。彼らは私にダイレクトに愛を伝えてくれます。そんな彼らのことが私は大好きです。アメリカに来て他の国籍の人と仲良くなれて私を認めてくれて、人との出会いの大きさは何にも変え難いものです。

もうアメリカに対する新鮮さは薄くなり、文化や生活の違いにストレスを感じるようにもなりました。しかし、それらを感じられるのも貴重な経験だと考え、後悔のない留学生活にしていきたいと思います。

